

地域の宝で元気な島へ

コミュニティを復活を

自然遺産に向け
開さん講演 沖縄エコツアーリズムに学ぶ 喜界町

奄美群島の世界自然遺産登録に向け、沖縄県でエコツアーリズムに携わる開黎香さんの講演会が二日夕、喜界町コミュニティセンターであった。開さんは伊江島の民泊事業など紹介し「身近な自然や文化、コミュニティを守っていくことが地域ツーリズムにつながる」などと語った。

鹿児島県と奄美群島広域事務組合の主催。町民約五十人が聴講した。開さんは、琉球放送アシスタントディレクターを経て二〇〇二年にエコツアーリズム国際大会・沖縄の企画・プロデュースを担当。現在、(株)カルティベイト代表。西表島や座間味島、北大東島などで体験滞在交流促進を手掛けている。

「地域の宝を生かして元気な島へ」沖縄からの報告をテーマに講演した。開さんは、沖縄本島北部の東村の「自然との共生、都市との交流」をキーワードにしたクリーンツーリズムを紹介。体験型ツアー客が五十人から三万四千へと急増し、共同売店の売り上げも増え、「経済効果に加えて集落の美化や村民の環

境保全意識、ホスピタリティが向上した」と波及効果を示した。伊江島が二〇〇三年から島外の高校生らを対象に取り組んでいる民泊事業（ヒューマンツーリズム）も紹介。受け入れ人数は初年度三百人で、〇六年度は一万三千人、今

年度は二万人に達し、目に見える経済効果だけでなく二億円に上ることを示し、「子供たちと住民とが触れ合うことによってお互いがいい方向に変わ

っていった」と、民泊事業の成果を説明した。さらに西表島の公民館を核とした地域活性化の事例などを挙げ、地域ツーリズムの可能性について「これからの観光は地元の人が地元の良さを発信し呼び込む時代。足元の良さを見いだすことに

よって自然や文化を大事にしたい、残したいという気持ちが高まってくる。コミュニティが復活すれば自然保護も活性化でき、子供や孫たちに引き継げる息の長い経済活動ができる」と、人と人のつながりの大切さを強調した。

